

# みずくらしいど

校長 加藤雅弘

## 『ドラゴン桜』と「皿沼小」は、同じ？

先週金曜日、足立区教育長の大山先生が全校訪問の一環として皿沼小に来校されました。30分強の時間でしたが、本校の教育理念についての話で多いに盛り上がりました。その中で私も感じていた話題がありました。それがタイトルの内容です。

『ドラゴン桜』は、4月下旬から日曜日に始まったドラマで、学力の低い高校から東大合格者を出すことを目指す番組で、16年前のリメイクです。第2話での東大クラスの最初の取り組みは、いきなり過去問をやって現時点でのデータを取り、どの教科が得意で、また苦手かを把握することでした。大山教育長は、この部分について、本校で年度当初から始めた、誤答分析による自らの学習状況をメタ認知する取り組みが非常に似ていると感じたとおっしゃっていました。私もここを見ていて同様のことを感じました。さらに第4話までを再度見直してみると、主人公の人物（桜木弁護士）から発せられるセリフが、本校の取り組みと似ているのです。

① 「なぜを考える」「意味を考える」「それが本質を考えることになる」

② 「自分の人生は自分で決める」

③ 「生徒同士で教え合うことが、よりよい理解につながる」

① につきましては、通信第2号で触れました。「なぜ、駅の周囲に商店が多いのか」と第3話で出た東大の過去問「なぜ、カボチャはメキシコやニュージーランドから輸入されるのか」は、思考のスタイルが全く同じです。

② のセリフは、東大専科クラスに入るかどうか、さらにはその生徒の生き方について、岐路に立つたびに発せられています。保護者会でも触れましたように、本校では家庭学習を自主的な内容に切り替えていきます。また、今後さらに、朝学習や補習、サマースクールなども自分で決める方向にシフトチェンジすることを検討しています。

③ 通信では4号で触れています。児童の皆さんには始業式や入学式の話の中で次のように伝えてあります。間違えることを恐れず発表することが、本当の理解につながることで、そして、間違っただけからといってバカにする人がいたら、先生は必ず叱ってくれるという内容です。これを「教室はまちがうところ」という合言葉で表し、様々な場面で使っています。ドラマの中で謳われていたことは、紙幅の関係で省きますが、「まちがった考え」が出されることで、「なぜ、そうなのか」が明確になることがとても重要だと考えています。正しい意見だけで進むと授業は早く終わるかもしれませんが、「なぜ、そうなのか」には触れずに終わってしまう場合が多いのです。異なる意見も出ることで「みんなどう思う？」と全員が自分事として考えるきっかけになります。これによって子供同士が話し合う場が生まれます。そして、「なぜ、そうなのか」が分かる。これは①の「本質を考えること」につながっていきます。

今、小学校で求められている学力は、同じ公教育の最高学府で求められる学力（ドラマの解釈ですが）と同じといえるということが分かる教育長の訪問になりました。これらが、これからの実社会が求めている力、20年後に必要な力であると改めて感じる機会でした。